

情報公開文書

2016 年 4 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに札幌医科大学附属病院消化器内科で自己免疫性胃炎と診断された患者さんへ

研究課題名:

自己免疫性胃炎の診断と合併症に関する検討

研究機関名:

札幌医科大学附属病院

研究機関長:

病院長 渡辺 敦

研究責任者:

札幌医科大学附属病院 消化器内科学講座 准教授 吉井 新二

研究分担者:

札幌医科大学附属病院 消化器内科学講座 診療医 三宅 高和

研究協力者:

札幌医科大学附属病院 消化器内科学講座 診療医 高井 駿

情報の管理について責任を有する者の氏名または名称:

札幌医科大学附属病院 病院長 渡辺 敦

1. 研究の概要

1) 研究の目的

本研究は、自己免疫性胃炎の適切な診断とフォローアップの確立を目指します。自己免疫性胃炎は自己抗体が胃の壁細胞という胃酸を分泌する細胞を攻撃し慢性的な胃炎を起こす稀な疾患です。本国においてはヘリコバクターピロリ感染者が多い背景もあり、診断が難しいこともある疾患ですが、胃がんや胃神経内分泌腫瘍などを合併することがあります。また、進行すると鉄分やビタミン B12 の吸収障害が出現し貧血や神経症状を呈することもあります。そのため、自己免疫性胃炎の診断となった場合は合併症を早期に発見し治療介入できるように適切なフォローが必要とされています。本研究では当院で診断された自己免疫性胃炎の患者様の採血検査結果や内視鏡検査結果などを振り返ることによって、今後の自己免疫性胃炎の診断やフォローに役立てることを目的としています。

2) 研究の意義・医学上の貢献

自己免疫性胃炎の診断となった症例に関して、合併症の検討を行うことによって、自己免疫性胃炎の適切なフォローアップ方法の確立を目指します。

その結果、自己免疫性胃炎の合併症に対して早期の診断と介入が可能になります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

対象は、2016 年 4 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに札幌医科大学附属病院消化器内科で自己免疫性胃炎と診断された 20 歳以上の患者さんです

2) 研究期間

病院長承認後～2026 年 12 月 31 日

3) 予定症例数

10 例

4) 研究方法

当院において自己免疫性胃炎の診断となった患者さんの採血検査データ、上部消化管内視鏡所見、病理組織学的所見の検討を行います。

5) 使用する情報

この研究に使用するのは、大学病院のカルテに記載されている情報の中から以下の項目を抽出し使用させていただきます。分析する際には氏名、生年月日などのあなたを特定できる情報は削除して使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 患者さん基本情報:年齢、性別、診断名、既往歴
- ・ 血液検査、上部消化管内視鏡所見、病理組織所見

6) 情報の利用開始予定日

情報利用開始予定日は 2025 年 5 月以降となります。ただし、研究の参加について拒否の申し出があった方のデータは研究最終解析では利用しません。研究の途中経過の報告ではその時点までに拒否の申し出がなかった方のデータのみを用いて発表する事があります。

7) 情報の保存と二次利用

本研究で使用した情報は研究終了後、研究完了報告書提出日から 5 年間保存します。電子情報の場合はパスワード等で管理・制御されたコンピューターに保存します。その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。その後、保存された情報を新たな研究に使用する場合は、倫理審査委員会の承認を得ます。

3. 研究結果の公表

この研究の結果は学会や論文で発表します。その際も氏名、生年月日などのあなたを特定できるデータは一切含まないようにします。

4. 研究に関する問い合わせ等

本研究に関して質問がある場合、以下の連絡先までお知らせください。また、研究に使用されたくない場合は 2025 年 12 月 31 日までにご連絡をいただければ対応いたします。

問い合わせ先

- 研究責任者: 札幌医科大学 消化器内科学講座 准教授 吉井 新二
 - 住所: 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目 札幌医科大学 消化器内科学講座
 - 電話: 011-611-2111(内線 32110)消化器内科学講座教室 平日 8:45~17:30
 - FAX: 011-611-2282
 - メールアドレス shinji-yoshii@sapmed.ac.jp
-

注意事項

お申し出の時点で、研究に使用しない手続を行います。ただし、個人が特定できない形で既に解析されたデータは取り除くことができない場合があります。その点をご了承願います。また、研究に関するお申し出が 2025 年 12 月 31 日を過ぎた場合や、すでに研究結果が学会や論文で公表されている場合には、研究データからの削除ができないことをご理解ください。これらの手続により、診療や病院サービスに不利益が生じることはありません。